

## 基隆&宮古島での客船ウォッキング

2025.1.11 池田良穂

「MSC ベリッシマ」は、基隆で1泊しました。到着した朝には、コンテナ埠頭のコンテナ船を撮影するのを楽しみにしていましたが、起きた時には、船は既に港の最奥部の西側岸壁に着岸していました。部屋のベランダからは、カーフェリー「New Taima」の船尾が見えました。18階のスカイラウンジに登って港内に見渡してみると、左右の2つのコンテナ埠頭に船影はなく、対岸の東岸岸壁には台湾の軍艦が2隻と小型貨物船が停泊しているだけでした。基隆滞在中2日共に雨の降る生憎の天気でした。シップウォッキングの収穫もなく、基隆の町をぶらぶらした以外は、船内で過ごしました。



キャビンのベランダから「New Taima」が見えました。三浦造船で建造されたカーフェリーで、基隆と馬祖列島を結ぶ。福富会員による詳しい航海記が、本会メールニュース(台湾の港と船(1))で配信されていますので、ご参照ください。



基隆港に停泊する「New Taima」と「MSC ベリッシマ」です。滞在中は、雨で、気温も寒く、船内で過ごす時間が長くなりました。クルーズ客船は、船 자체がディスティネーションと言われるほど、船内設備とイベントがと整っていて、退屈することはありませんでした。



「MSC ベリッシマ」の船上から見た基隆港の全景



停泊する台湾の巡視船。ウェーブピアシング型の高速船。

基隆を夕刻に出港して翌朝には宮古島の平良港に到着しました。この港には、避難錨泊をするための防波堤に囲まれた広い水域がありますが、その防波堤の1つにクルーズ専用岸壁が整備されて、MSC ベリッシマはその岸壁に着岸しました。この岸壁から防波堤の付根に設けられたターミナル施設までは遠く、徒歩での移動はできずに、無料送迎バスが運行されていました。

停泊した「MSC ベリッシマ」の船上からは平良港の全景が見渡せ、多良間航路の「フェリーたらまIII」の姿や、荷役中の RORO 貨物船「みやらびII」と「よね丸」の姿がありました。この日、「フェリーたらまIII」は強風で休航となりましたが、2隻の RORO 貨物船は荷役終了後、相次いで出港していました。本島や石垣島と宮古島を結ぶ旅客カーフェリー定期航路が廃止されてからだいぶたち、宮古島で見られる客船の数もすっかり少なくなってしまいました。その代わり、クルーズ客船の寄港は、近年急増しており、島の観光業も潤っているようです。宮古島では、上陸して繁華街をぶらついて、宮古そばの店で昼食をとり、港を廻って船に戻りました。街中を歩いてみると、レストランや居酒屋の多くは夕方からの営業で、昼食を食べれる店は限られており、クルーズ客船の経済効果を得る体制の確立はまだまだの状況のように思いました。



宮古島に到着直前にタグボート「泡瀬丸」がやってきました。



防波堤の先端付近に建設された大型クルーズ客船用のバース。防波堤の付根付近に設けられたターミナルまではバスでの輸送が行われました。



宮古島の平良港と多良間島を結ぶ「フェリーたらまⅢ」。この日は強風で欠航とのことでした。



宮古島の平良港のクルーズ客船岸壁に停泊する「MSC ベリッシマ」



防波堤の袂に設けられたクルーズターミナル。



平良港を基点とするレストラン船兼水中展望観光船「モンブラン」。1日3便の運航でした。



琉球海運のRORO貨物船「みやらびⅡ」。



南西海運の RORO 貨物船「よね丸」です。